麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 動物応用科学科

職階 講師

氏名 寺川純平

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

家畜人工授精特別実習・動物繁殖学実習：家畜の生殖器解剖、生殖細胞の操作・培養、人工授精・胚移植技術等の操作を体験し、動物繁殖学に対する理解を深めるための実習である。座学での知識を活用できるよう、実際の操作手順を確認しながら、なぜその操作が必要なのかを理解してもらうよう努めた。

専門ゼミ・科学の伝達：研究活動の基礎となる部分について、実験動物の取り扱いに関する参考書の読解と解説を中心に講義を行った。研究分野に関する論文紹介を行い、最新の情報を提供し、学生の研究への興味関心が高まるよう努めた。質疑応答により双方向性を高めた。動物生殖制御論・動物受精卵移植論：動物繁殖学の発展的講義として、動物繁殖学の復習を行いながら、さらに深い内容、より専門的な話題や最新の研究内容、社会動向についての講義を行った。

動物繁殖学：生命現象の理解に重要な学問である。基礎的な部分の理解が身につくよう図説資料の提供と解説を多く行なった。動物、特に哺乳類における生殖機構の共通点、相違点を理解してもらうよう努めた。また学生の繁殖学に対する興味関心が高まるよう研究の歴史と最新の話題について情報提供を行った。前回講義の質問回答と復習を次回講義に行うことにより、学生の講義への理解が深まるよう努めた。

毒性学：化学物質の有害な作用やその強さを実験的に計測し、ヒトや動物の健康に対する化学物質の危険性を予測する学問分野である。身近な話題や過去の事例などを中心に講義内容の構成を行い、学生の興味関心が高まるように講義を行った。

毒性学-機器分析実習：毒性学実習は、化学物質の安全性評価や信頼性のある試験方法について、資料を用いた模擬体験および動物や標本の観察を通して理解を深める実習である。グループ単位での活動を主体とし、学生自身の動きの多い実習となるよう努めた。

動物解剖・生理学実習：動物機能解剖学や動物生理学で学んだ知識を深めるための実習である。ニワトリの肉眼解剖を担当し、学生の興味関心が高まるよう努めた。

基礎ゼミ：「疑似科学」をテーマに、身近な情報の真偽、根拠を考えてもらうための話題を提供した。学生には各々テーマを決めて調べ、プレゼンテーションを行なってもらった。資料作成やプレゼンテーションの方法についての講義を行った。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
家畜人工授精特別実習	動物応用科学科	選	3	60
専門ゼミ	動物応用科学科	必	3	7
科学の伝達	動物応用科学科	必	4	3
卒業論文	動物応用科学科	必	4	3
動物繁殖学実習	動物応用科学科	選	3	60
動物生殖制御論	動物応用科学科	選	4	40
動物繁殖学	動物応用科学科	必	2	173
動物受精卵移植論	動物応用科学科	選	3	78
毒性学	動物応用科学科	選	3	92
毒性学-機器分析実習	動物応用科学科	選	3	73
動物解剖・生理学実習	動物応用科学科	必	2	166
基礎ゼミ	動物応用科学科	必	1	148
比較毒性学特論Ⅰ	動物応用科学専攻（博士前期課程）			4
比較毒性学特論Ⅱ	動物応用科学専攻（博士前期課程）			2

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

基本的には、「学生の学問・研究に対する興味関心の向上」「減点方式でなく加算方式の教育」「双方向性を重要視したアクティブラーニング」を通して、学生が自主的に学び、自分の興味を追求できるようにする。多くの情報が溢れている現代社会で、それらを自分で理解し、判断し、適切に対応できる人材を育成する。また、動物応用科学の視点から「社会にどのように貢献できるか」をしっかりと考え、実践できる人材を輩出する。そのために、学生との対話の機会を多く持ちたいと考える。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

教育の目的と目標：「学生の学問・研究に対する興味関心の向上」「減点方式でなく加算方式の教育」「双方向性を重要視したアクティブラーニング」を実施する。

対面、オンラインに関わらず開始時間を守った講義・実習と余裕のある講義・実習内容を心がけている。フィラーによる受講学生のストレスがないように気をつけ、自分の講義録画を確認し改善を目指している。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

講義後の質問対応や課題提出により一方的な情報の提供にならないようにし、学生が講義・実習内容について自分で消化理解し、疑問点を明確にできるよう取り組んでいる。実習についてはグループワークによる主体性を重視する。

(2) ICTの教育活用

有

学習支援システムを用いた質問対応や課題提出を行っている。映像資料やWebサイトを活用した講義資料の提示を行っている。携帯からアクセスしやすいようWeb資料はQRコードを追加している。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

ポイントとなる部分を押さえてもらえるよう、基本的内容と発展的内容を分けて話すようにしている。提示した資料にアクセスしやすいよう、参考文献や資料はQRコードで記載した。

(2) 学生の理解度の把握

B

網羅的な試験問題から、学生が苦手とする内容について探っている。毎回の講義で質問事項を記入してもらい、後日回答を行っている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

書き込み型の資料を配布している。講義や実習内容を振り返る課題を設定している。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

講義後に質問や感想を募集し、適宜解説や回答を行っている。実習では各グループの進行度を確認して、適宜補助や助言を行っている。

(5) 双方向授業への工夫

A

講義では時間内でのリアルタイムの双方向性の確保が難しいが、講義後に質問や感想を募集し、すべての質問に回答を行っている。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

初回の授業から有効なデバイス・アプリ等を使用し、講義の進行速度の調整を行なった。実習では昨年度時間を要した部分の内容を一部見直しした。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

講義内容（どこまで専門的か）や進行方法は個別の要望も多いため、難しいと感じる学生の十分なフォローが必要である。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

補足資料や教材を提供し、該当分野が苦手な学生にも理解を進めてもらえるようにする。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

講義や実習内容に関する最近のトピックを紹介している。

(2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

新しく興味を持った学生も一定数いると思われる。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

FD研修会に参加し、動画視聴を行なった。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

該当の分野に少しでも興味が湧くよう、最新的话题を交えて講義・実習を組み立てたい。また、基礎的な部分の理解が進むよう、重要な部分については繰り返し提示するとともに、小テストを実施するなどをして理解を深めるようにする。学生評価の高い講義・実習になるよう努め、関連する分野の研究を希望する学生の数を増やす。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

シラバス、授業に関するコメント